



平成24年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月10日

上場取引所 東

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社

コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理部長 (氏名) 鷲本 晴吾

TEL 03-5733-2121

四半期報告書提出予定日 平成24年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年9月期第2四半期の連結業績(平成23年10月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|-------|-------|---|-------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年9月期第2四半期 | 1,451 | △70.8 | △164 | — | △138 | — | △462 | — |
| 23年9月期第2四半期 | 4,977 | 92.0 | 1,791 | — | 1,757 | — | 1,835 | — |

(注) 包括利益 24年9月期第2四半期 △193百万円 (—%) 23年9月期第2四半期 1,796百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年9月期第2四半期 | △387.91 | — |
| 23年9月期第2四半期 | 1,518.92 | 1,517.90 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 24年9月期第2四半期 | 6,689 | 4,373 | 48.1 |
| 23年9月期 | 7,682 | 4,870 | 48.9 |

(参考) 自己資本 24年9月期第2四半期 3,218百万円 23年9月期 3,756百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年9月期 | — | 0.00 | — | 100.00 | 100.00 |
| 24年9月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 24年9月期(予想) | — | — | — | 100.00 | 100.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年9月期の連結業績予想(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 3,560 | △49.1 | 80 | △93.7 | 150 | △87.7 | 280 | △80.1 | 234.56 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

除外 1社 (社名)合同会社サンデュエル中山

(注)詳細は、添付資料4ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 24年9月期2Q | 1,209,243 株 | 23年9月期 | 1,209,043 株 |
|----------|-------------|--------|-------------|

② 期末自己株式数

| | | | |
|----------|-----|--------|-----|
| 24年9月期2Q | — 株 | 23年9月期 | — 株 |
|----------|-----|--------|-----|

③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 24年9月期2Q | 1,191,757 株 | 23年9月期2Q | 1,208,300 株 |
|----------|-------------|----------|-------------|

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報（その他）に関する情報 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (4) セグメント情報等 | 9 |
| (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、欧州債務危機や円高により足踏みの状態が続きましたが、米国の景気回復や震災の復興需要の浸透などにより、期間末にかけて円高株安が修正されることになりました。しかしながら、海外景気の下振れ懸念や原油価格高騰などにより、先行きは依然として不透明でありませ

ず。
このような経済環境において当社グループは、企業を支援するブティック型投資銀行として、国内外の成長企業や事業再生案件への投資、財務アドバイザー（FA）業務、またこれらを相互補完するアセットマネジメント（AM）業務を主として展開しました。環境、エネルギー関連や海外または日本に進出しようとする企業に対する投資、事業支援のニーズは強く、また事業再生を目指す企業からも引合いが継続しております。当第2四半期連結累計期間においては、継続的なFA業務やAM業務で一定の安定収益を確保した上で、前連結会計年度に実行した不動産投資案件での回収や、FinTech Gimv Fund, L.P. (FGF)での創業ベンチャー企業の株式売却による収益がありましたが、ファイナンスアレンジやAMで大型案件の新規獲得が低調であったことに加え、当社単体での企業投資案件のエグジットも見送ったことで、収益に大きな伸びはありませんでした。また、FGIキャピタル・パートナーズ(株)においては、グローバルマクロ運用の運用成績低迷、及びベンチャー投資運用の投資先企業がエグジットしなかったことにより成功報酬収益が計上できず、また平成23年11月より提供を開始した投資運用戦略（イベント・ドリブン戦略）についてもA I J問題の影響で年金基金等による新規の運用委託は様子見となり運用資産残高の積増しのペースが鈍化していることなどを総合的に勘案し、同社に係るのれん償却額126百万円を特別損失に計上いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績については、売上高は1,451百万円（前年同期比70.8%減）、営業損失は164百万円（前年同期は1,791百万円の利益）、経常損失は138百万円（前年同期は1,757百万円の利益）、四半期純損失は462百万円（前年同期は1,835百万円の利益）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお売上高については、前連結会計年度まで外部顧客への売上高で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間よりセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。また、報告セグメントの名称を、第1四半期連結会計期間より「アセットマネジメント・アドバイザー事業」は「アセットマネジメント事業」に、「プリンシパルファイナンス事業」は「プリンシパルインベストメント事業」に、それぞれ変更しております。

①投資銀行事業

フィンテックグローバル証券(株)は事業会社のFA業務により一定の安定収益は確保しつつも、大型案件の減少により、前年同期比で売上高は減少しました。

この結果、投資銀行事業の売上高は119百万円（前年同期比61.3%減）、営業損失は43百万円（前年同期は149百万円の利益）となりました。

なお、第3四半期以降は、FGIグループの案件探索、投資家探索の営業開発部門としての位置付けのもと、①事業再生案件に係るFA業務、②中堅デベロッパーにニーズが高い開発型のファイナンスアレンジ、③DPO（Discount pay off）を用いた事業再生アレンジ、④(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングとの協働による環境配慮型エネルギー事業に注力して顧客層の拡大を狙っていきます。

②アセットマネジメント事業

フィンテックアセットマネジメント(株)（FAM）は、既存AM案件のリファイナンスによる手数料収入、AM継続案件による手数料収入がありましたが、大型のリファイナンス案件等があった前年同期に比べ売上高は減少しました。FGIキャピタル・パートナーズ(株)（FGICP）はグローバルマクロ運用及びベンチャー投資運用で成功報酬による収益がなかったことや、運用の委託を検討していた年金基金がA I J問題により慎重な態度となり、平成23年11月設定の投資運用戦略についても運用資産残高の積増しのペースが第2四半期末にかけ鈍化いたしました。

これらの結果、アセットマネジメント事業の売上高は124百万円（前年同期比30.1%減）、営業損失は140百万円（前年同期は18百万円の利益）となりました。

なお、第3四半期以降については、FAMは外部投資家を招聘し当社グループがマイナー出資するファンドを案件毎に設立、運営する事業を開始し、有望な企業・事業等をその運用対象としていきます。また、FGICPは、上場会社の子会社としてのメリットを最大限に生かし、高い信用力を有する運用会社として、運用資産残高の積増しを企図しております。

③プリンシパルインベストメント事業

当社（フィンテックグローバル(株)）は、当社グループ内外で見出される投融資機会に対し、厳選して資金拠出し、投資先企業の経営支援により企業価値向上に努めております。収益としては、前連結会計年度に実行した投資回収が中心となりましたが、投資先企業には、その価値を大きく向上させている企業もあり、今後これらの適切な出口戦略を検討して参ります。

この結果、プリンシパルインベストメント事業の売上高は730百万円（前年同期比79.3%減）、営業利益は169百万円（前年同期は1,858百万円の利益）となりました。

④その他投資先事業

㈱ベルスは、キャンペーン効果や発売物件増加により持ち家サービス部門が引続き好調を維持し、震災の影響が懸念されていたカード部門の売上高もほぼ計画通りに推移したため、売上高は253百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は27百万円（前年同期比447.4%増）となりました。

Crane Reinsurance Limitedは、出再元の都合により当期の第1四半期、第2四半期に対応する勘定書の交付が遅れていることから、前期までに交付された勘定書により当第2四半期連結累計期間に対応する未経過保険料・保険金、コストを計上しております。このため、売上計上にはいたらず（前年同期は売上高618百万円）、営業損失は14百万円（前年同期は122百万円の利益）となりました。なお、Crane Reinsurance Limitedは平成24年1月より新規契約を締結しておらず、既存契約に基づく収益費用を計上しております。

なお、FinTech Gimv Fund, L.P. (FGF)は、投資先企業の株式を売却したことにより、320百万円の売上計上にいたっており、FGFとしてはこれが初の投資先企業のエグジットとなりました。

これらの主な子会社及び他の子会社の経営成績により、その他投資先事業の売上高は575百万円（前年同期比33.5%減）、営業利益は225百万円（前年同期は56百万円の利益）となりました。

⑤公共財関連事業

㈱パブリック・マネジメント・コンサルティングは、平成24年度予算獲得に向けて継続して営業を強化しましたが、総務省の「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」の答申待ちの地方自治体が多く、契約件数が伸び悩みました。他方、地方自治体以外で官庁会計を利用するマーケットの開拓により契約が増加し、売上を押し上げました。今後は、継続してこのマーケットでの契約を増やしつつ、販売チャネル拡大による新規顧客獲得を目指していきます。さらに、地方自治体向けに環境配慮型エネルギー事業や、他システム会社との連携など新しい取組みを積極的に取入れる予定であります。

この結果、公共財関連事業の売上高は118百万円（前年同期比3.0%減）、営業損失は52百万円（前年同期は2百万円の利益）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は6,689百万円（前連結会計年度末比12.9%減）となりました。これは主として、投資回収により販売用不動産が420百万円、未収入金が1,398百万円減少したものの、現金及び預金が775百万円、営業投資有価証券が260百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は2,316百万円（前連結会計年度末比17.6%減）となりました。これは主として、保険契約準備金が129百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は4,373百万円（前連結会計年度末比10.2%減）となりました。これは主として、四半期純損失及び利益配当により利益剰余金が581百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年9月期連結業績予想につきましては、当第2四半期決算発表時点においては、平成23年11月14日に公表しました業績予想を修正しておりません。

既存のプリンシパル投資先企業については企業価値の増大に努めており、すでに相応の企業価値を有する企業もあります。経営支援による更なる企業価値向上を見込んで保有を継続する選択肢もありますが、これらの企業の売却等による当連結会計年度中のエグジットを当然検討しております。投資リターン及び各事業の概入

れ等をもって通期業績予想を十分に達成しうるため、現時点においては通期業績予想を変更いたしません。各事業においては、上記に記載の通り、第3四半期より主要な子会社の経営陣、体制変更により、新たな経営施策を開始しており、今後も更なる業績及び企業価値向上に邁進して参ります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

合同会社サンデュエル中山は、平成24年1月31日をもって清算終了したため、当第2四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計基準等の改正に伴う会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失を計上しているため開示しておりません。

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

連結納税制度の適用

第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年9月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年3月31日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,804,161 | 2,579,580 |
| 売掛金 | 125,682 | 144,192 |
| 営業投資有価証券 | 2,002,744 | 2,263,448 |
| 販売用不動産 | 420,531 | — |
| 繰延税金資産 | 1,049 | 5,868 |
| 営業貸付金 | 2,707,235 | 2,702,579 |
| 未収入金 | 1,563,973 | 165,013 |
| その他 | 122,286 | 63,854 |
| 貸倒引当金 | △2,091,453 | △2,036,574 |
| 流動資産合計 | 6,656,212 | 5,887,962 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 169,408 | 162,952 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 473,509 | 295,430 |
| その他 | 29,335 | 27,119 |
| 無形固定資産合計 | 502,844 | 322,550 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 84,033 | 98,365 |
| 敷金及び保証金 | 201,255 | 149,159 |
| その他 | 68,740 | 68,654 |
| 投資その他の資産合計 | 354,029 | 316,179 |
| 固定資産合計 | 1,026,282 | 801,682 |
| 資産合計 | 7,682,494 | 6,689,644 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年9月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年3月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 24,356 | 55,601 |
| 短期借入金 | 55,000 | 40,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 81,837 | 2,004 |
| 未払金 | 301,649 | 291,784 |
| 未払費用 | 54,312 | 30,380 |
| 未払法人税等 | 15,812 | 7,080 |
| 預り金 | 490,755 | 490,707 |
| 賞与引当金 | 26,251 | 29,448 |
| その他 | 126,567 | 23,989 |
| 流動負債合計 | 1,176,541 | 970,995 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 45,157 | 4,155 |
| 繰延税金負債 | 74,123 | 80,991 |
| 退職給付引当金 | 86,097 | 92,529 |
| 保険契約準備金 | 1,286,699 | 1,157,180 |
| その他 | 142,985 | 10,248 |
| 固定負債合計 | 1,635,063 | 1,345,104 |
| 負債合計 | 2,811,604 | 2,316,100 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,312,384 | 2,312,517 |
| 資本剰余金 | 5,183 | 5,183 |
| 利益剰余金 | 1,671,501 | 1,090,041 |
| 自己株式 | △52,412 | △52,412 |
| 株主資本合計 | 3,936,656 | 3,355,329 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △629 | △4,259 |
| 為替換算調整勘定 | △179,243 | △132,801 |
| その他の包括利益累計額合計 | △179,872 | △137,060 |
| 新株予約権 | 18,091 | 17,592 |
| 少数株主持分 | 1,096,015 | 1,137,682 |
| 純資産合計 | 4,870,890 | 4,373,544 |
| 負債純資産合計 | 7,682,494 | 6,689,644 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日) |
|-------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 4,977,518 | 1,451,922 |
| 売上原価 | 2,119,333 | 641,890 |
| 売上総利益 | 2,858,184 | 810,031 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,066,748 | 974,168 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 1,791,436 | △164,137 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2,604 | 3,027 |
| 為替差益 | — | 18,516 |
| 確定拠出年金返還金 | 543 | — |
| その他 | 3,599 | 7,850 |
| 営業外収益合計 | 6,747 | 29,393 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 37,360 | 2,687 |
| 支払手数料 | 1,479 | 1,406 |
| その他 | 2,036 | 161 |
| 営業外費用合計 | 40,876 | 4,255 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 1,757,307 | △138,999 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 263 | 184 |
| 貸倒引当金戻入益 | 42,388 | — |
| 新株予約権付社債償還益 | 298,800 | — |
| 新株予約権戻入益 | — | 866 |
| その他 | 26,270 | — |
| 特別利益合計 | 367,722 | 1,051 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | 1,208 | — |
| 投資有価証券売却損 | 226,874 | — |
| 出資金清算損 | 2,661 | 149 |
| のれん償却額 | — | 126,767 |
| その他 | 41,207 | 34,195 |
| 特別損失合計 | 271,950 | 161,113 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 1,853,079 | △299,061 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 31,039 | 5,855 |
| 法人税等調整額 | 8,145 | 2,048 |
| 法人税等合計 | 39,184 | 7,904 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△) | 1,813,894 | △306,965 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | △21,417 | 155,329 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 1,835,311 | △462,295 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日) |
|---|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△) | 1,813,894 | △306,965 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | — | △8,948 |
| 為替換算調整勘定 | △16,921 | 121,974 |
| その他の包括利益合計 | △16,921 | 113,026 |
| 四半期包括利益 | 1,796,972 | △193,939 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,827,620 | △419,483 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | △30,648 | 225,543 |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成22年10月1日 至 平成23年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------------------|------------|----------------------|------------------------------|------------------|-------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 投資銀行 事業 | アセット マネジメント 事業 | プリンシパ ルインベス トメント 事業 | その他 投資先 事業 | 公共財 関連事業 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 298,423 | 173,678 | 3,521,453 | 863,239 | 120,724 | 4,977,518 | — | 4,977,518 |
| セグメント間 の内部売上 高又は振 替高 | 11,340 | 4,815 | 9,085 | 1,800 | 1,714 | 28,754 | △28,754 | — |
| 計 | 309,763 | 178,493 | 3,530,538 | 865,039 | 122,438 | 5,006,272 | △28,754 | 4,977,518 |
| セグメント 利益 | 149,895 | 18,601 | 1,858,179 | 56,905 | 2,553 | 2,086,135 | △294,699 | 1,791,436 |

(注) 1 セグメント利益の調整額△294,699千円には、セグメント間取引消去200,288千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△494,987千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業90,000千円、アセットマネジメント事業90,000千円、公共財関連事業9,000千円を負担しております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------------------|------------|----------------------|------------------------------|------------------|-------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 投資銀行 事業 | アセット マネジメント 事業 | プリンシパ ルインベス トメント 事業 | その他 投資先 事業 | 公共財 関連事業 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 85,443 | 121,291 | 553,018 | 573,446 | 118,722 | 1,451,922 | — | 1,451,922 |
| セグメント間 の内部売上 高又は振 替高 | 34,400 | 3,475 | 177,487 | 1,800 | — | 217,162 | △217,162 | — |
| 計 | 119,843 | 124,766 | 730,506 | 575,246 | 118,722 | 1,669,085 | △217,162 | 1,451,922 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | △43,171 | △140,604 | 169,911 | 225,261 | △52,793 | 158,603 | △322,741 | △164,137 |

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△322,741千円には、セグメント間取引消去21,674千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△344,415千円が含まれております。全社費用は、主に報告セ

グメントに帰属しない一般管理費であります。

- 2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業81,000千円、アセットマネジメント事業85,000千円、その他投資先事業6,000千円、公共財関連事業30,000千円を負担しております。
- 3 報告セグメントの名称変更
報告セグメントの名称について、より適切に事業内容を表示するため、第1四半期連結会計期間より「アセットマネジメント・アドバイザー事業」については「アセットマネジメント事業」に、「プリンシパルファイナンス事業」については「プリンシパルインベストメント事業」に、それぞれ変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントの名称についても、当該変更後の名称で表示しております。
- 4 報告セグメントの記載順番の変更
報告セグメントは従来、「投資銀行事業」、「アセットマネジメント事業」、「公共財関連事業」、「プリンシパルインベストメント事業」、「その他投資先事業」の順番で記載しておりましたが、当社グループにおける経営強化事業の見直しに併せて、報告セグメントの記載順番の見直しを行い、第1四半期連結会計期間より「投資銀行事業」、「アセットマネジメント事業」、「プリンシパルインベストメント事業」、「その他投資先事業」、「公共財関連事業」の順番に変更致しております。なお、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントの記載順番についても、当該変更後の順番で表示しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。